

3つのポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

幼児教育学科は、職業人としての使命感と責任感を持ち、豊かな教養、確かな技術を備えた保育の専門家を養成したいと考えています。そのために保育者としての専門性の基礎となる学問やコミュニケーションの力を身につけます。そして保育の専門分野を三つの視点から学ぶことを特徴として、教育を進めています。子どもたちの生活全体を支援でき、保護者や地域と協同の下自ら考え行動できる人材育成を目標にしています。

これらを実現するために以下のような興味・関心・実感できる人を求めています。

1. 乳幼児の発達、子どもとのかかわり方に興味・関心のある人
2. 努力を惜しまず、積極的に学ぼうとする意欲のある人
3. 子どものあそびに重要性を実感できる人

また、本学科の入学試験においては、保育や子どもに関する社会の動き等に関心を持ち、様々な人とコミュニケーションをとることができる力を備えていることを重視します。また自分自身を俯瞰し、自分の長所や課題を客観的に受け止めることができる力を求めます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

幼児教育学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示した目標を達成するために、教育の基本的な視点を以下の3点にまとめ、教育課程編成の方針としています。

1. 社会人としてのコミュニケーションスキルや情報リテラシー等の、多様化する保育ニーズなどについて十分に理解を深める。
2. 保育の専門知識や技術を学び、実践場面で豊かに表現できる力を育てる。
3. 実習体験を通して自己の課題を見出し、意欲的に克服することのできる力を育てる。

これらを実現するために、教育内容・教育方法を以下のように明示するとともに、各科目の関連性をカリキュラムマップで把握できるようにしています。

（教育内容）

1. 「基礎教育科目」〈学びの基礎になる科目〉

1年次に「基礎科目」を配置しています。建学の精神に関わるキリスト教の理念について理解する事を重視しています。心身の健康の維持・増進、情報の収集や活用法、社会情勢などに関わる内容を学修することにより、保育者のための学びの土台を築きます。

2. 「専門科目」

〈幼児教育・保育の本質や対象の理解〉

幼児教育・保育の目的・制度・歴史を理解します。幼児教育・保育に携わる者の資質・職務・養成とその歴史についても理解します。また、幼児教育・保育の対象である子どもや保護者を理解する能力を育成します。

〈保育の内容・方法、表現技術の理解〉

保育実践を支える「保育内容（健康）、保育内容（人間関係）、保育内容研（環境）、保育内容（言葉）」等により基本的技能を具体的に修得します。

〈学びを深化させる能力の育成〉

「あそびすとコース」「障がい児支援コース」「子育て支援コース」いずれかのコースでの活動により活きた学びを体験します。そして、自らの関心に従い個別の課題を設定して、卒業研究レポートを作成します。

〈総合的な実践力の育成〉

「教育実習」と「保育実習」を通してそれまでの学びを統合し、子どもを深く理解するとともに保護者や現場の保育者と密にコミュニケーションを取りながらチームとして保育に携わる能力を育成します。保育・教育関連施設から依頼される地域活動への参画を通して、子どもや保護者等と接することで、企画の段階への関与を含めた総合的な実践力を育成します。

（教育方法）

1. 「基礎教育科目」

職業人として求められる自己表現力を本学の建学の精神に則って育成しています。また、国際社会の情勢に鋭敏に反応する感性を養うと共に、国際化に対応できるコミュニケーション能力を少人数制の対話型授業により育成しています。

2. 「専門教育科目」

〈個の学びを保障する学修形態〉

専門的な知識や技術をより多く、より深く学修するために、講義形式の方法のほか、グループ学習や保育施設での体験学習等の方法を採用しています。とくに「専門ゼミナール」では特定の事柄について、学生自ら課題を発見し研究を重ねることを通して、保育実践力を高めていく姿勢や能力を育成します。

〈保育・教育実習を通しての学びの深化〉

5回の教育・保育実習を通して、保育におけるPDCAサイクルを学修します。実習前の指導では、グループワークを通して個別の課題を意識させることで挑戦力の向上を図ります。続いて、実習期間中のエピソード記録や実習後の指導では、学生間での学びの分かち合いと個々の振り返りの中で、学びを深化させる能力をも培っています。

〈1・2年生合同の行事による学びへの協働〉

幼児教育学科の1・2年生合同行事として「実習激励会」と「実習交流会」を開催しています。学内での学びを保育の現場で確かめ、さらに発展させる実習は、期待も大きい不安でもあります。その姿勢をお互いに励まし合い、ともに進む決意を持つ機会とします。

2年生は最後の実習に向かい、保育者として働く準備を整えます。1年生は、2年生の「実習激励会」に臨む姿を見て、実習の重要性と取り組む姿勢を学びます。「実習交流会」では1・2年生合同のグループを設営し、1年生の実習に対する質問や準備するとよい点について、2年生が経験をもとに助言や提案をします。この交流が、本学科の幼児教育・保育の伝統を引き継ぐ機会となっています。

また2年生は、2年間の学びの集大成として、「卒業研究発表会」を行います。1人ひとりが取り組んだ研究を「卒業研究発表会」で2年生の仲間や1年生にプレゼンテーションしま

す。研究の主旨が伝わるよう、資料の作成や発表の文言の選択、時間配分を工夫することで、自己表現力を高めます。また発表会の運営を学生自身が担うことで、役割分担、責任感、仲間との協働を体得します。1年生は、2年生の研究発表を聴講し、次年度の学びをイメージし、専門性を高める学習の姿勢を養います。

〈地域活動への参画〉

本学近隣の教育・保育関係機関との交流により、実践力を高めていきます。地域行事への参画、地域ボランティア活動、学科主催のあそびの交流会等への参画により、企画力やコミュニケーション力を育成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

幼児教育学科では、基礎科目13単位、専門科目53単位の合計66単位を取得し、以下の3つの能力を身につけた者に対して学位（短期大学士(幼児教育)）を授与します。

1. 豊かな教養と短期大学士にふさわしい専門性を身につけていること。
2. 子どもと保護者への理解を深め、適切な支援をする力量と資質を有すること。
3. 心身の健康に努め、職業人として果たすべき役割を実行できること。

具体的には、次のような能力を備えていることをその要件とします。

- (1) 多様な文化や生活の背景を理解し尊重する力
豊かな知識と教養を身につけ、社会の問題を自己の問題として捉え解決できること。
- (2) 専門的知識と技能を活用する力
幼児教育・保育に関する専門的知識と技術を確実に習得していること。
- (3) コミュニケーション能力
子どもと保護者の思いを理解し、適切な支援をする力量を備えていること。
- (4) 子どもの問題を発見し解決できる力
一人ひとりの子どもの課題を教育的視点と発達の観点から理解・追究し、対応策を提案できること。
- (5) 社会人として必要な一般教養を学び続ける力
幼児教育・保育者として必要とされる礼節を身に付けると共に時代の流れに応じて変化する知識・情報を学び続けること。
- (6) 地域のために活動し、貢献できる力
地域の子育て支援に関心を持ち、責任をもって参画することができ、心身の健康に努めると共に、意欲的にキャリアを高めていくことができること。